

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 兵庫県立兵庫高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒653-0804
神戸市長田区寺池町1丁目4-1

E-mail Hyogo_hs@pref.hyogo.lg.jp
Website <http://www.hyogo-c.ed.jp/~hyogo-hs>

幼児児童生徒数 男子 422 名 女子 536 名 合計 958 名
幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校創造科学科および、普通科学科設定科目「グローバルリサーチ」選択者は、「文理の枠を超えた学びを通じて、複雑で正解のない問題の解決に主体的に挑戦しよう!」をテーマとして、ESDを地域における課題解決型学習や国際問題に対する探究活動と捉え、ESDの実践を通して「社会想像力」「科学的思考力」「複眼的思考力」「自律的活動力」の4つの力を育成することを目標とした。

具体的には、地域課題解決型学習と国際問題探究を柱に、①地域における課題解決に係わる活動、②多文化共生に係わる教育、③国際問題探究に係わる学習、④自然科学研究に係わる学習を行った。

① 地域における課題解決に係わる活動

学校設定科目「創造基礎」において、創造科学科1年を対象に、学校所在地の神戸市長田区の地域課題解決学習および実践活動を行った。おもなテーマは、空き地再生プロジェクト「駒ヶ林アクアリウム」、シニア向け移住促進動画「ながたのええとこザ・ベストテン」、外国人住人への言語対応「やさしい日本語で外国人にやさしい神戸のまちへ」などである。

② 多文化共生に係わる教育

学校設定科目「RRE」において、創造科学科1年を対象に、「教育」「環境」「財政」をテーマに研究し、兵庫教育大学の外国人留学生と意見交流をおこなった。また、学校設定科目「グローバルリサーチⅠ」において、普通科1年を対象に、「地域における多文化共生」をテーマに、多文化共生センターひょうご代表北村広美氏によるワークショップを実施した。これらを通して、異文化理解にとどまらず、多文化共生の視点で学習をすることができた。

③ 国際問題探究に係わる学習

学校設定科目「創造応用ⅠL」において、創造科学科2年を対象に、国際問題に関する探究活動をおこなった。SDGsにもとづいて、日本を含む国際問題について研究し、課題解決のための提言をおこなった。おもなテーマは、「なぜ核兵器はゼロにならないのか～核抑止に着目して～」「地域における外国人住民の課題解決について」「雇用における女性の選択肢」などである。また、学校設定科目「グローバルリサーチⅡ」において、普通科2年を対象に、国際問題について研究した。おもなテーマは、「ハロン湾の環境保全」「子ども兵を増やさないために」「ベトナムと日本の野菜の機能性評価」などである。

④ 自然科学研究に係わる学習

学校設定科目「課題研究」において、創造科学科1年を対象に、神戸大学大学院人間発達環境学研究科の大学院生とともに共同研究をおこなった。おもなテーマは「環境DNAによる分布調査」「数理生物学からゴキブリの行動を解析」などである。また、学校設定科目「創造応用ⅠS」において、創造科学科2年を対象に、大学教授等とともに研究をおこなった。おもなテーマは「構図と色彩に基づく景観構成への提案」「どろ電池の開発」などである。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 放課後や長期休業中)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

現代社会 (東京書籍)、フォーラム現代社会 (とうほう) 今がわかる時代がわかる世界地図 2017 (成美堂出版) その他、テーマに関する書籍、論文、統計データなど
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

学校設定教科「創造」を開設し、社会科学分野と自然科学分野の課題研究を実施している。

創造科学科の1年生では学校設定科目「創造基礎」「課題研究」2、3年生では「創造応用」の授業を通して、ユネスコスクールの活動を行っている。普通科の生徒は「グローバルリサーチⅠ～Ⅲ」を選択した生徒が取り組んでいる。

課題研究のテーマについて、SDGsの17の目標を意識したものを設定させている。指導においても、生徒が取り組む研究テーマがどのようにSDGsに関連しているのかを指針にするよう共通理解をしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

学校設定科目に複数の教科・科目の教員が担当しており、全教員数のうち3分の1以上の教員が指導にあっている。この担当は、翌年にはその多くが交代するため、結果としてほぼすべての教員がユネスコスクールの取り組みに関わることになる。このようにして継続的な指導体制を組織している。また、後述する⑥のように、外部との連携を促進し、学校だけでなく、多くの機関とともに生徒にESDおよびSDGsを意識した取り組み体制づくりに努めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

本校は文部科学省より「スーパーグローバルハイスクール」および「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究指定校」に指定されており、学校設定教科の取り組みについては内部および外部の評価を行っている。内部評価は自己評価および相互評価、教員からの評価で構成している。外部評価は、大学教員や市役所職員、企業経営者等から構成されている運営指導委員から評価および指導を受けている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

地域の課題解決型学習については、地域の関係者とともに実践活動に取り組み、ふりかえりもおこなっている。本校のユネスコスクールとしての取り組みの活動成果については、「関西学院大学総合政策学部リサーチフェア」「京都大学課題研究発表会」「福井大学実践探究ラウンドテーブル」「金沢大学高大接続ラウンドテーブル」「立教大学第5回シティズンシップ教育ミーティング」にて発表をおこない、多くの大学教員や研究者などから高い評価を得た。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

長田区役所、地域のまちづくり団体、地元企業、大学、国際機関等との連携によって、授業および研究、実践活動をおこなっている。とくに、長田区役所との連携協定を今年度締結し、継続的な協働体制が確立した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

12月に大阪 YMCA で実施された「ワンワールド・フェスティバル for Youth」において、多くのユネスコスクールと交流することができた。今年度から、神戸市ユネスコ協議会が中心となって、市内5つの学校が連携することが決まった。来年度以降、発表会等で交流を深めていく予定である。また、イギリス研修において、ロンドンでのユネスコスクールの運営（ASP NET）を行っている The STEAVE SINNOTT FOUNDATION の CEO、Ann Beatty 氏から講義を受け、イギリスにおけるユネスコスクールの取り組みについて理解を深めた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

本校の特筆すべきこととして、「第1回薬剤耐性（AMR）対策普及啓発活動」として、大学や民間団体が取り組むなか、高校として唯一「文部科学大臣賞」を受賞した。ベトナム研修で取り組んだAMR対策のフィールドワークをもとに研究した生徒たちが、論文作成や発表活動などを通して啓発したことが評価された。本校のテーマである「文理の枠を超えた」取り組みであり、またSDGsを目指した活動が評価されたことは、生徒にとって意欲を高めるものとなった。

（3）平成30年度の活動計画

今年度同様、地域の課題解決型学習、国際問題の探究活動、自然科学研究を実施していく予定である。この活動のなかに、よりSDGsを意識したテーマ設定や解決策の提案をしていけるよう指導していくつもりである。同時に、指導者もSDGsを深く理解し、生徒の研究をサポートしていける体制をより明確につくっていくことを次年度の課題としたい。

また、以上の取り組みを発表会等で広めることで、ユネスコスクールの活動としての広報の役割も担っていきたい。とくに、地域の課題解決型学習は、先進国である日本においても多くの課題があり、その課題に対してステークホルダーとともに本校生が取り組む姿を広めていきたい。